

室伏広治さんが基調講演 「努力がチャンス生む」

スポーツ研究所シンポジウム

「支えるスポーツ」をテーマにしたスポーツ研究所のさまざまな取り組み（佐竹弘靖所長）のシンポジウムが11月29日、生田キャンパスであった。アテネ五輪ハンマー投げ金メダリストで東京五輪・パラリンピック組織委員会スポーツディレクターの室伏広治さんが基調講演。第2部では専大スポーツ関係者が支えること、支えられることについて意見を交わした。



「失敗体験が人を大きくする」と語りかける室伏さん

室伏さんは自身の失敗体験を振り返り「努力することでチャンスは生まれてくる。大切なのは、最初に競技を始めたときの初心だ」と力強い笑顔を見せた。

第2部シンポジウムでは、レスリングの中村倫也さん(平29商)、バレーボール日本代表アナリスタの吉田清司法学部教授、日本トリアスロン連合パラリンピック対策チームリーダーの富川理充商学部准教授が「支えるスポーツ」の価値について語り合った。フェンシングの菊池小巻さん(商3)もビデオ出演した。



支える側、支えられる側の立場からスポーツを論じる中村さん(左)、室伏さん(中央)、吉田准教授(右から)

会場には学生ら延べ800人が詰め掛け、活発に質問が出された。スポーツの良さを問われた吉田教授は「多様性が特徴。競技する、観戦する、支えるなどさまざまな形で携われる」。スポーツにおける心構えを聞かれた富川准教授は「意志、初心を大切にしてほしい。『覚悟』を持って臨めるか否かが分

「失敗恐れず」胸に刺さる

飛田翼(文3)、専大スポーツ編集長

初めて室伏広治さんの話を聞きました。2020年に東京で行われる東京五輪・パラリンピックでは、試合会場が迫力ある映像や盛り上がるアナウンスを流し、よりエンターテインメント性を高める計画があることを知りました。室伏さんが14度日本代表に選ばれるまで、そのうち9回はメダルを取らなかった

と話されていたことで、さすをバネにしていたことに驚きを隠せませんでした。室伏さんの「何回失敗しても誇っていい、皆取れたらいい、皆取れなかったら悔しい」という言葉は胸に刺さり、私にも日々の失敗を恐れず、何事にも挑戦しようとする姿勢を持ち続けようと思います。

かれ目になると語った。7人制ラグビー日本代表の野口宜裕さん(法3)も聴講し、「室伏さんのトレーニングに向かう姿勢に強く共感した。東京五輪でも代表選手に選ばれるようがんばりたい」と話した。徳江一航さん(商3)は「同じ大学の同世代が世界を舞台に戦っているのを知り刺激になった。今後も応援したい」と壇上を見つめた。

国際浮世絵学会会場での板坂ゼミ生



国際浮世絵学会秋季大会 文・板坂ゼミ生ら奮闘

11月25、26の両日、神田キャンパスで第22回国際浮世絵学会秋季大会が開催され、「浮世絵と文学」をテーマに研究発表などが活発に行われた。江戸期の文学文化を専門にする板坂則子文学部教授のゼミ生や大学院生13人が、運営や進行の手伝いで奮闘した。

ゼミ長の深沢歩花さん(文3)は「ゼミで海外の大学とネット授業を行っている。浮世絵と文学がテーマなので学会の開催は興味深かった」と話した。また、イタリアのフィレンツェ大学から本学に留学中のパレリオ・リッチさんは曲亭馬琴を研究しており、代表作『橋説写張月』のイタリア語翻訳を試みている。前田さんは、「長女」の心理を題材にした。昨年の文芸の鳳賞受賞者で、2年続けて大賞受賞となった。柘植賞は懸賞論文・文芸作品コンクールの審査委員を長く務めた柘植光彦元文学部教授の遺志を継ぎ、12年に創設された。

懸賞論文・文芸作品コンクール 論文鳳賞に黒沢さん

柘植賞に前田さん

学生部主催の2017年度懸賞論文・文芸作品コンクールの授賞式が12月5日、生田キャンパスで行われた。懸賞論文部門の最優秀に当たる鳳賞に黒沢亮史さん(二部商)が輝いた。

両部門で14人が入賞した(別表参照)。入賞作品は作品集として18年3月に発行される。

懸賞論文部門は、今年からテーマを設定し4テーマ①キャンパスのダイバーシティを考える②国際社会で果たすべき日本の役割③地球温暖化はわれわれの未来に何をもちわすか④国際政治・国際経済から選ぶ。鳳賞の黒沢さんは①を選び、入学金の問題点について論じた。「入学前に支払うための負担が大きい入学金。支払える環境にない貧困家庭出身者は、受験に合格したのに大学教育を受ける機会を失ってしまう」ともある。大学が本来持つ多様性を阻害してしまわないか」と執筆動機を語



阿藤正道学生部長から賞状を受け取る黒沢さん(左)

賞	氏名(学部学年)	作品名
鳳賞(賞金20万円)	黒沢亮史(二部商3)	入学金が貧困家庭の大学進学に与える影響—既存支援制度の持つ問題と解決に向けて—
優秀賞(賞金5万円)	中村優希(人間3)	核廃絶に向けた日本の役割
	岩崎優花(人間3)	日本の農林水産物・食品における輸出拡大—日本食ブームを利用して—
	山泉早紀(人間3)	グローバル化におけるハロウィンの変容—ひとり歩きする日本らしさ—
佳作(賞金2万円)	佐藤有那(人間3)	ダイバーシティにおける教育の在り方とは—自由な学びの場から—
	高橋怜(人間3)	インターネットが開く高齢者の社会進出の可能性—学生の年齢の多様化を目指すために—
鳳賞(賞金20万円)	該当者なし	
柘植光彦文学賞(賞金20万円)	前田明香(文3)	姉嬢
優秀賞(賞金5万円)	坂田望(文4)	ガラテアの胎動
	横山萌笑(文1)	自由へ道連れ
	大角菜里奈(文4)	その前にパフェが食べたい
	岩出拓也(経済4)	禅問答インザシー
	松本美鈴(文4)	忘れられたバタフライ・エフェクト
	吉積幸秀(文2)	自墮落な探偵
	西村ありさ(文2)	輝きに向かって
佳作(賞金2万円)		

懸賞論文・文芸作品コンクール受賞者(敬称略)